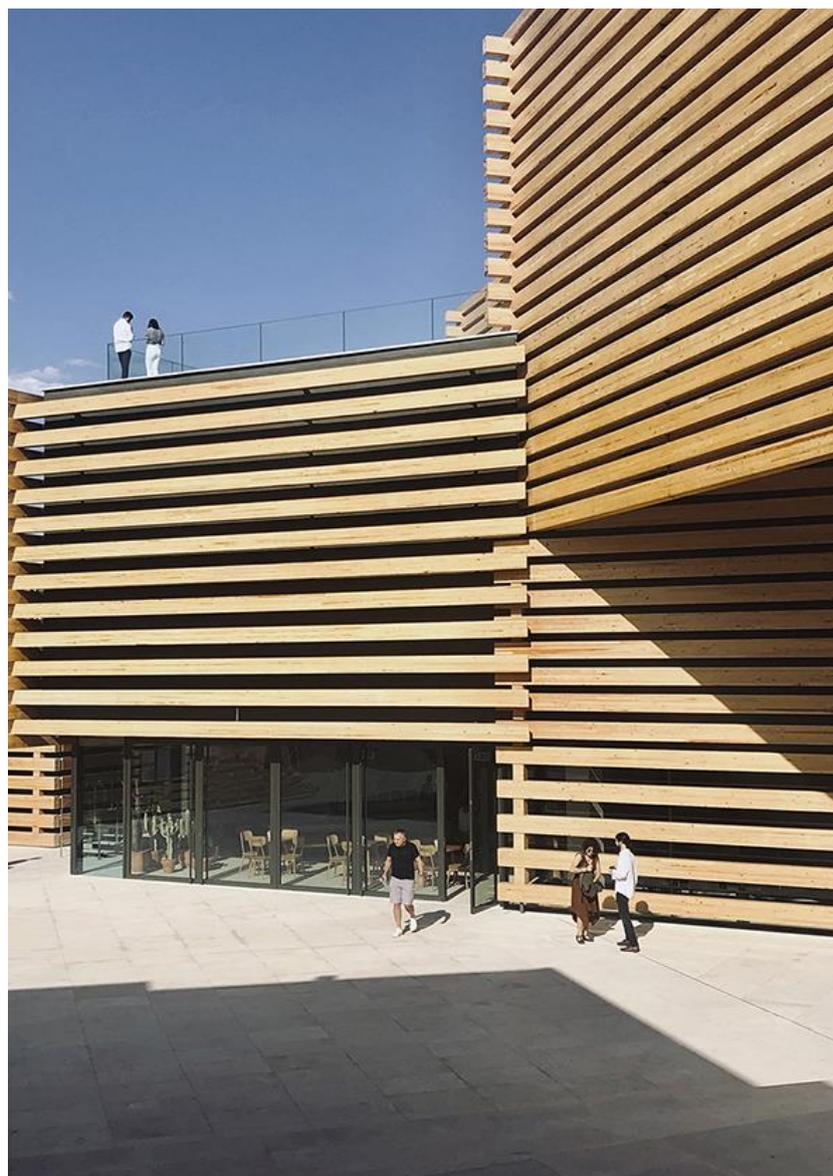


# 隈研吾展

新しい公共性をつくるための<sup>ネコ</sup>🐱の5原則



オドゥンパザル近代美術館(トルコ) 2019 ©Erieta Attali

会期:2021年6月18日(金)~2021年9月26日(日)

会場:東京国立近代美術館 1F 企画展ギャラリー



## 開催趣旨

米 TIME 誌にて「2019 年世界で訪れるべき最も素晴らしい場所 100 選」に選ばれた《V&A ダンディー》や《国立競技場》の設計に参画するなど、現代日本を代表する建築家のひとりである隈研吾(1954-)。

本展では、世界各国に点在する隈作品の中から公共性の高い68件の建築を、隈が考える5原則「孔」「粒子」「斜め」「やわらかい」「時間」に分類し、建築模型や写真やモックアップ(部分の原寸模型)などにより紹介。その他、映像作品、前庭に展示されるトレーラーハウスを合わせ、合計74件で隈の世界を紹介します。章解説や作品解説はすべて隈本人によるもの。また、瀧本幹也や藤井光など第一線で活躍するアーティストによる映像作品で隈建築をさまざまな観点から見ていただく空間のほか、360度 VR などの体感要素、さらに、ネコの視点から都市での生活を見直すリサーチプロジェクト《東京計画2020 <sup>ネコちゃん</sup>建築の5656<sup>コロコロ</sup>原則》(Takram との協働)も発表します。コロナ禍というきわめて難しい時代の中で開催される本展が、新しい公共性や未来の都市のあり方について考える機会となれば幸いです。

## 隈研吾 プロフィール



1954年生。東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年限研吾建築都市設計事務所設立。2009年より2020年3月まで東京大学教授。現在、東京大学特別教授・名誉教授。1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の国立屋内総合競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を志す。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、日本建築学会賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、国際木の建築賞(フィンランド)、国際石の建築賞(イタリア)等、受賞多数。

Photo © J.C. Carbonne



## 「くまてん」豆知識

### ■日本博の一環としての「くまてん」

日本博主催・共催型プロジェクトの一環として制作された《東京計画2020》、360度VR、インタビュー映像を会場でご覧いただけます(360度VRの体験は13歳以上に限られます)。

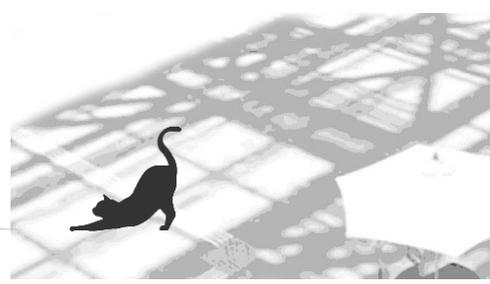
日本博公式ウェブサイト:<https://japanculturalexpo.bunka.go.jp/>

### ■東京国立近代美術館(MOMAT)が「くまてん」を開催するということは……

1952年に開館した MOMAT は、これまでも建築展を開催してきました。当初「グロピウスとバウハウス」展(1954)や「ブラジル近代建築展:新首都建設」(1958)など海外の動向紹介を中心に、その約30年の後、1986年に「近代の見なおし:ポストモダンの建築1960-1986」展をドイツ建築博物館からの巡回展に日本の動向を紹介するパートを加える形で開催。その後再び間を明け、2008年、オリジナル企画として「建築が生まれるとき ペーター・メルクリと青木淳」を開催。さらに2010年の「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」、2011年の「ヴァレリオ・オルジャティ」(スイス連邦工科大学チューリッヒ校建築理論・建築史研究所との共催)、2018年の「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」(国際交流基金との共催)と続き、いよいよ2021年に、MOMAT としては開館以来はじめてとなる大規模な建築家の個展として、この隈研吾展を開催することとなりました。



## 本展のみどころ



### 1. 「人が集まる場所」のための隈独自の的方法論を、5原則の形で抽出

本展では、隈自身が選んだ公共性が高い建築68件を、時系列ではなく、「孔」「粒子」「斜め」「やわらかい」「時間」という5原則に分類して紹介します。

### 2. 先端技術を用いた体験展示

隈が設計した建築の「実際」を、本展のために制作された新作映像を通して紹介します。

#### 1 高知県ゆずはら梶原にある6つの隈建築 × 瀧本幹也(+坂本龍一)

高知県西部の山間にある小さなまち梶原町には、初期から最近作まで6つの隈建築が存在します。それらの建築を写真家・映像作家の瀧本幹也がハイスピードカメラを用いて撮影。リアル4Kによるリリカルな映像インスタレーションへと昇華させました。坂本龍一の音楽とともに、日本の伝統的建築にインスパイアされた隈建築の造形美を堪能できます。



瀧本幹也（梶原のインスタレーションのためのプラン）2020  
©Mikiya Takimoto

#### 2 スコットランドにできた博物館《V&Aダンディー》× タイムラプスイメージ

ロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館初の分館となる《V&Aダンディー》の設計者に選ばれたのが隈研吾でした。これを、アイルランドのマクローリン兄弟によるアヴァンギャルドなタイムラプスイメージで紹介합니다。



タイムラプスイメージからのスティル映像(昼と夜の映像を交互につなげることで建物を点滅させるシーンより)

#### 3 富山市民に人気の図書館・美術館・銀行の複合施設《TOYAMA キラリ》× 360度VR

《TOYAMA キラリ》の特徴は、斜めにたちあがる吹き抜け空間。そこにドローンを飛ばして360度VRで撮影しました。ヘッドマウントディスプレイで見る約7分間の映像により、隈建築の空間をリアルに体感できます(360度VRの体験は13歳以上に限られます)。ナレーションは日英ともに隈研吾が担当します。





### 3. クマは思う、都市の未来はネコに学べ、と

丹下健三は前回の東京オリンピック前の1961年に、《東京計画1960》という、東京湾に海上都市をつくる案を建築雑誌に発表しました。その大胆なアイデアは、模型を俯瞰して撮った写真とともに伝説となっています。今回、隈は、そんな丹下の《東京計画1960》への応答として、《東京計画2020 ネコちゃん建築の5656原則》を美術館での展覧会で発表します。対照的なのは、都市へと向かう視点。丹下の、海上の人工都市を俯瞰から見る視点に対して、隈が選んだのは、なんと地面に近いネコの視点。一箇所に定まらずテンテンと暮らし、スキマに入り込んで自らノラミチをつくっていくネコの生態に、コロナ禍以降の人々は学ぶべきだと隈は問いかけます。このほっこりとしつつも大胆なプレゼンテーションは、日本を代表するデザイン・イノベーション・ファームである Takram との協働により実現しました。

### 4. 各地の市民に協力出演してもらった映像

気鋭のアーティスト、藤井光が市民ボランティアや NPO の協力を得て長岡市役所《アオーレ長岡》の日常をドキュメンタリータッチで撮影。アーティスト津田道子は南三陸町と熊本市で、隈建築の施主や利用者のインタビューを撮影しました。

### 5. 《国立競技場》のスタディ模型と照明を特別にお見せします

隈が設計に参画した《国立競技場》の競技後のインタビューゾーン(フラッシュインタビューゾーン)には、隈がデザインした大型の行灯のような照明があります。本展ではこれを特別に展示。また大量につくられた競技場のスタディ模型の中から、約40点を厳選して展示。展覧会として世界初公開します(高知(閉幕)、長崎(2021年3月28日まで)会場でも展示)。

### 6. 隈研吾建築都市設計事務所による展示デザイン。章解説や作品解説はすべて隈研吾が執筆。



展示風景(長崎県美術館)



展示風景(長崎県美術館)



## 1. 隈独自の метод論を、5 原則の形で抽出



20世紀のコンクリートと鉄で作られた建築は、何か息が詰まるような感じがする。そう考える隈は、人間に優しい建築をつくることを目指しています。そのために彼がしていることのひとつが木を使うことですが、実際には、木を使うだけでは人間に優しい建築はできません(それにどうしても構造には鉄を使わなければならないこともあります)。本展では、人間に優しい建築=人が集まる場所=新しい公共性が生まれるような場所をつくるために隈が用いている方法論を5つに分けて紹介します。

(なお、ひとつの建物は、当然ながら、「孔」と「粒子」と「斜め」といったように複数の方法論の組み合わせでできていますが、展覧会では便宜的に、ひとつの建物はあるひとつの方法論において紹介されることとなります。)

### 孔

隈の建築では、「孔」が重要な要素となっています。たとえば《那珂川町馬頭広重美術館》では、建物に、トンネルのような孔をあけることで、街と里山とがつながるようにしました。《V&A ダンディー》でも、日本の鳥居に着想を得て、街と川とをつなぐ孔をつくっています。また隈は、建物と建物との間に隙間としてできる空間も孔だと考えています。《アオーレ長岡》は、市庁舎棟とアリーナ(体育館)棟と市民協働センターの入った棟という3つの建物の間に、ナカドマという大きな吹き抜けの空間をつくっています。そこが市民の憩いの場になっているのは、それがどこかで、大きな洞窟のような印象を与えるからでしょう。隈は「ネコは孔を使って、ある場所へと抜けていく以上に、孔の中に身を隠すことを大事にしている。コロナ後の人間もまた、ハコによって守られるのではなく、孔によって守られる時代をむかえるだろう」と述べています。



アオーレ長岡 2012 ©by FUJITSUKA Mitsumasa

### 粒子

いわゆる公共建築は、ヒューマンスケールを超えた建物となり、威圧的になることがほとんどです。そこで隈が用いるのが「粒子」という方法論です。たとえば隈は、日本全国、どの製材所でも製造できる幅10.5cm程度の小径木と呼ばれる木をよく使います。小さな径の木であったとしても、それをきちんと組み合わせていけば大きな荷重を支えることができるのです。と同時に、建物をヒューマンスケールにすることができます。このように、建築を小さな単位=粒子の集合体として捉えることで、隈は、建築と、その中におかれる様々なモノと同じレベルで考えることができるようになる、つまり人に優しい建築ができると考えています(ネコも、のっぺりした空間ではなくて、粒子状の肌理のある空間を好みます)。



雲の上の図書館 / YURURI ゆすはら 2018  
©Kawasumi-Kobayashi Kenji Photograph Office





## やわらかい

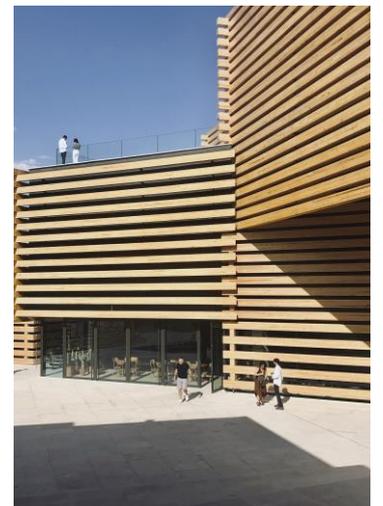
通常、建築は固いものと思われています。でも、たとえば日本の伝統的な建築の壁が、水で溶いた土を塗ったものだったりするように、やわらかい素材を使って建築をつくることも可能です。たとえば隈は、《高輪ゲートウェイ駅》では、駅全体を覆う屋根の素材に膜を選びました。その結果、駅構内には自然光が満ちることになりました。もちろん膜を支える構造は必要ですが、隈はそれを、垂直・水平ではなく、斜めに組み合わせていくことで、屋根を、山や丘陵を思わせるものとししました。隈は、やわらかさを導入することで、建築を、人にやさしい環境的なものへと近づけようとしているのです。(ネコはかたくてつるつるしたものよりもやわらかくて触感のあるものを好みます)。



高輪ゲートウェイ駅 2020 ©東日本旅客鉄道株式会社

## 斜め

軒下で雨宿りをすることができるように、下に向かう傾斜を持つ屋根は、「守る」印象を与えます。一方、寺社の山門などに見られるような上に向かう傾斜を持つ屋根は、「迎える」印象を与えます。隈は、こうした斜めを様々な形でその建築に取り入れることで、人に優しい建築をつくります。また、斜めとなるのは屋根だけではありません。壁も、また床も斜めになることがあります。2020年に竣工した《東京工業大学 Hisao & Hiroko Taki Plaza》では、屋根をステップ状にして地面からつなげています。また屋根上を庭園にすることで、周辺地域とスムーズにつながるようにしているのです(隈によれば、屋根や塀の上を自由に移動するネコは、「大いなる斜めの先達」です)。



オドゥンパザル近代美術館(トルコ) 2019 ©Erieta Attali

## 時間

隈における方法論としての「時間」はちょっと独特です。古くなった建物は、ボロくなることで、その物としてのあり方が弱くなりますが、隈は、「物を弱くすることで、公共空間が楽しくなり、公共空間が人間のものになる」と考えています。それゆえ彼は、古くなった建物を用途変更したりしながら再生させる、いわゆるリノベーションのときに、ぴかぴかにきれいにするのをせず、自転車の車輪を装飾に使ったり、経年変化しやすい木材を用いたりするなど、あえてボロさが出るようにすることがあるのです(ネコがボロい空間が大好きであることは、言うまでもありません)



La Kagu 2014 ©SS Co., Ltd.



## 2. 先端技術を用いた体験展示



### ■高知県梶原にある6つの隈建築 × 瀧本幹也(+坂本龍一)

高知県梶原町は、愛媛県との県境にある町。そこには初期の《雲の上のホテル》にはじまり《梶原町総合庁舎》《まちの駅「ゆすはら」》《木橋ギャラリー》《雲の上の図書館(梶原町立図書館)》《YURURI ゆすはら》といった最近作まで、隈建築が6つもあります。この町にある隈建築を、2019年の夏に写真家・映像作家の瀧本幹也が訪れハイスピードカメラを用いて撮影。それをリアル 4K による映像インスタレーションへと昇華させました。坂本龍一の音楽とともに、日本の伝統的建築にインスパイアされた隈建築の造形美をご堪能いただけます。



#### 瀧本幹也 プロフィール

1974年愛知県生まれ。94年より藤井保氏に師事。98年に瀧本幹也写真事務所を設立。広告写真をはじめ、グラフィック、エディトリアル、自身の作品制作活動、商業フィルム、映画など幅広い分野の撮影を手がける。主な作品集に『LAND SPACE』(13)『SIGHTSEEING』(07)『BAUHAUS DESSAU ∴ MIKIYA TAKIMOTO』(05)など。「CROSSOVER」展(ラフォーレミュージアム原宿、18)など個展多数。また12年からは映画の撮影にも取り組み、15年には『海街 diary』(是枝裕和監督作品)で第39回日本アカデミー賞最優秀撮影賞を受賞。

瀧本幹也 (梶原のインスタレーションのためのプラン) 2020  
©Mikiya Takimoto

### ■スコットランドにできた博物館《V&Aダンディー》 × タイムラプス映像

ロンドンにある世界でも有数のヴィクトリア&アルバート博物館。その分館がスコットランドのダンディーという人口約15万人の都市につくられることになったとき、世界の強豪を抑えて設計者に選ばれたのが隈研吾でした。今回この《V&A ダンディー》を素材に、アヴァンギャルドなタイムラプス映像を制作したのは、アイルランドのマクローリン兄弟です。



タイムラプス映像からのスティル映像(昼と夜の映像を交互につなげることで建物を点滅させるシーンより)

#### マクローリン兄弟(The McGloughlin Brothers) プロフィール

アイルランドのスライゴー(Sligo)に住むパライックとケヴィンの双子によるユニット。パライックは2018年のタイムラプス・フィルム・フェスティバルにおいて第4位を受賞(エキスペリメンタル部門では第1位、第2位を受賞)。

### ■富山市民に人気の図書館・美術館・銀行の複合施設《TOYAMA キラリ》 × 360度VR

《TOYAMA キラリ》の特長は斜めにたちあがる吹き抜け空間。そこにドローンを飛ばして360度VRで撮影しました。





### 3. 猫目線の東京計画 2020

建築家の丹下健三が1964年の東京オリンピック開催前の1961年に発表した《東京計画 1960》は、建築家による都市の未来への大胆な提案として、よく知られています。この伝説的な案への応答として、今回隈研吾が発表するのが、《東京計画2020 ネコちゃん建築の5656原則》です。

日本を代表するデザイン・イノベーション・ファームである Takram との協働により、隈自身が住む神楽坂でネコの生態をリサーチ。そうして導き出されたのは、「テンテン」「ザラザラ」「シゲミ」「シルシ」「スキマ」「ノラミチ」という5656原則。これを、3DCG のアニメーションにより紹介し「スキマ」のパートではちょっとかわったプロジェクト・マッピングも用いています。

丹下の案に比べると脱力系とも見えるこのプロジェクトについて、隈研吾は次のように述べています。

コロナ禍は、ハコが人間を少しも幸福にしないということを教えてくれた。今まではハコの中で働くことが効率的であり、合理的であり、最も安全であるとされてきた。しかし僕ら自身が、生命の危機に晒されて、ハコから飛び出して、文字通り、ハコから逃げ出さなければならなくなった。政治や経済のロジックを超えた生物の本能がそれを命じた。／では、逃げ出して、どこに行けばいいのだろうか。僕自身緊急事態宣言の中で、ハコを出て、歩き始めた。歩いてみると、街がまったく違うものに見えてきたのである。ハコの外に、こんなにも大きな可能性があり、多くのコト(情報)があることに、今まで気がつかなかった。その僕が歩いた場所、歩くことのできた場所が公共空間である。ハコの外にあるのが、公共空間である。ハコを出て、公共空間について考えはじめた時に、僕はある動物と出会った。／ある動物とはネコである。僕の住んでいる東京の中心の神楽坂には、たくさんのネコが住んでいた。そのネコは、ハコを出て歩き始めた僕の、大先輩であった。ネコの移動の仕方、その好きな空間、その生活の仕方から多くのことを学んだ。そうして動物の身になって都市を見直したことのひとつの成果が、このコーナーである。神楽坂のカフェにいた半ノラのネコ、トンちゃんとスンちゃんに僕らはインタビューを行い、5656 原則は導き出された。誰かにエサをもらいながら——実際には複数の人間から——ハコを脱出して、都市を自由に生き抜いている半ノラはすでに、従来の公共空間対私的空間という、18世紀のジャンバッティスタ・ノッリ(1701-56)が定めた分割を、自由に乗り越えている。その半ノラの生き方は、僕らに多くのヒントと勇気を与えてくれる。／世界はすでに、ハコに覆われていて、このハコをぶち壊すなど、とてもできそうにない。しかし、半ノラは、わずかの隙間を頼りにし、そこを自分たちのベースとすることで、そんなハコ世界の解体を試みているのである。ハコは、すぐに壊せるわけではない。そしてハコを即、壊す必要もないのである。ハコの隙間を生きる半ノラの方法こそ、僕らは学ぶべきである。それが《東京計画 2020》であり、僕にとっての東京の今なのである。



隈研吾×Takram 東京計画 2020:ネコちゃん建築の 5656 原則 2020  
©Kengo Kuma and Associates ©Takram

#### Takram プロフィール

2006年に設立。「ビジネス」「デザイン」「エンジニアリング」の3つの領域を越境しながら、アプリやプロダクトのデザインにはじまり、ブランディングや空間デザインやヴィジョンデザインなど、多種多様なデザインを手掛ける。本プロジェクトは、緒方壽人、櫻井稔、成田達哉が担当。



## 4. 市民やクライアントに協力してもらって映像を制作



建物が実際に使われているシーンを撮影するには、市民による協力が不可欠です。今回、《アオーレ長岡》を撮影したのは、日産アートアワード2017でグランプリを受賞したアーティスト、藤井光。藤井は、全国から視察が訪れるほど活気ある市役所として知られる《アオーレ長岡》の日常を、市民ボランティアやNPOの協力を得て撮影しました。早朝に太極拳をする市民、勉強する学生、遊ぶ子供たち、社交ダンスのレッスンをする男女などの姿が、2面の映像インスタレーションにより、いきいきと描かれます。

また本展では、隈建築の発注者(クライアント)や利用者(ユーザー)に対するインタビューも上映します。というのも、ほとんどの建築は発注者の依頼に基づいて設計が始まり、竣工後は利用者によって維持されるものである以上、彼らの言葉もまた建築家のそれと同じように(あるいはそれ以上に)重要だと考えるからです。今回、気鋭のアーティストである津田道子は宮城県南三陸町と熊本県熊本市を訪れて、復興と建築をテーマに、町長、利用者、施主に対するインタビューを撮影しました。もちろん、隈研吾本人へのインタビュー映像もあります。



宮城県 南三陸町 佐藤町長インタビュー映像から



熊本県 浜田醤油 浜田氏インタビュー映像から

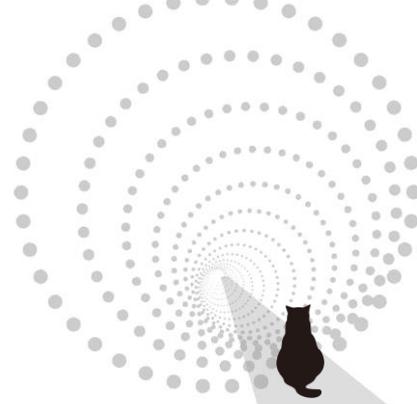
## 5. 《国立競技場》のスタディ模型とランプシェード

照明や椅子といった家具から、ルーバーという建物の一部や、土木のスケールを持つペDESTリアンデッキまで、《国立競技場》の様々な箇所をスタディするためにつくられた膨大な模型の中から、本展では約40点を選んで展示をします。展覧会の中で公開されるのは、世界初となります(先に開催された高知(閉幕)、長崎会場(2021年3月28日まで開催)ではすでに展示されています)。

また通常、一般の観客は入ることのできないフラッシュインタビューゾーン(競技後にインタビューが行われる場所)で用いられているランプシェード(と同じもの)を、特別に展示します。隈によるデザインの際にイメージされたのは、行灯や御簾もたらす日本的な光。全部で3種類(大・中・小)あるなかの「小」が展示されます。



展示風景(高知県立美術館) 撮影:中島健蔵





## 開催概要

ネコ

# 「隈研吾展 新しい公共性をつくるための🐱の5原則」

英語表記: Kuma Kengo: Five Purr-fect Points for a New Public Space

### 東京会場

会期	2021年6月18日(金)~9月26日(日)
会場	東京国立近代美術館 1F 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
開館時間	10:00-17:00/金曜日・土曜日:10:00-21:00(入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(7月26日、8月2日、9日、30日、9月20日は開館)、 8月10日(火)、9月21日(火)
お問い合わせ	ハローダイヤル 050-5541-8600
展覧会特設サイト	<a href="https://kumakengo2020.jp/">https://kumakengo2020.jp/</a>
主催	東京国立近代美術館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
協賛	大成建設株式会社、大洋建設株式会社、株式会社長谷工コーポレーション、大光電機株式会社、大日本印刷株式会社、前田建設工業株式会社、株式会社イトーキ、株式会社大林組、鹿島建設株式会社、コクヨ株式会社、小松マテーレ株式会社、株式会社佐藤秀、清水建設株式会社、株式会社 JR 東日本建築設計、住友林業株式会社、太陽工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、大和リース株式会社、株式会社竹中工務店、株式会社丹青社、TSUCHIYA 株式会社、東急建設株式会社、TOTO 株式会社、戸田建設株式会社、株式会社乃村工藝社、不二サッシ株式会社、三井住友建設株式会社、銘建工業株式会社、株式会社岸之上工務店
協力	エヌビディア合同会社、小松マテーレ株式会社、株式会社スノーピーク、富山市(富山県)、長岡市(新潟県)、株式会社 日本HP、浜田醤油株式会社、V&A ダンディー、真庭市(岡山県)、南三陸町(宮城県)、株式会社モデュレックス、株式会社モノファクトリー、株式会社YAMAGIWA、梶原町(高知県)
助成	公益財団法人 大林財団
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口より徒歩3分
観覧料	一般 1,300(1,100)円、大学生 800(500)円 *高校生以下および18歳未満、障害者手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 *()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 *同時開催 所蔵作品展「MOMAT コレクション・スペシャル」、コレクションによる小企画「デイヴィッド・スミス《サークルIV》を中心に(仮称)」(会期:5月25日~9月26日) 入館当日に限り本展の観覧料でご覧いただけます

※新型コロナウイルス感染症の拡大等の状況により、開催日程や出品内容が変更になる可能性がございます。詳細は東京国立近代美術館ウェブサイト(<https://www.momat.go.jp/>)をご確認ください。

本展は以下会場を巡回しています

高知県立美術館	2020年11月3日(火)~2021年1月3日(日)
長崎県美術館	2021年1月22日(金)~2021年3月28日(日)



The National Museum of Modern Art, Tokyo

《報道関係のお問い合わせ》

「隈研吾展」広報事務局(ユース・プランニングセンター内) 担当:鈴木、池袋  
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 ヒューリック渋谷一丁目ビル 3F  
Tel:03-6826-8853 FAX:03-3499-0958 E-mail:kuma2021@ypcpr.com

